＜記載様式＞

2018「神戸から学ぶ」私の感想

平成 30 年 1 月 30 日

氏名（会員番号）	片山 晋	参加回数	3 回目
参加した場所 （番号に〇印）	参加者：相原夫妻・池田・上原・植山・荏本・片山・早川・山田（美）さん計9名 Ⅰ阪神淡路大震災関連： ①　神戸市役所 ②　人と防災未来センター ③　兵庫県立大学：青田先生の講演 ・ 同 大学院生との意見交換 ④　神戸南京町の懇親会 ⑤　1．17つどい（慰霊のつどい） ⑥　阪神高速（株）震災保管庫解説・見学　　移動　湯浅城宿泊 7名 Ⅱ稲村の火関連：サイクルまち歩き ⑦　「稲むらの火の館」：・津波防災教育センター ・濱口梧陵記念館 ⑧　国の史跡：広村堤防：現在の防波堤 ⑨　濱口梧陵関連：感恩碑・銅像等 ⑩　広八幡神社：梧陵濱口君碑（勝海舟撰文並題額） ：稲むらの火祭 Ⅲ その他各種資料・新聞等		
他の参加・見学等	なし		
今回参加した感想 （番号〇付記）	震災から23年、大学生も生まれていなかった年月が経過し、市街には震災の傷跡は見られず、現地でも風化が進んでいる。私は上記のフルコースを参加したが、3度目になると初参加時の時のような強い印象はなく、自分の中でも風化しているのかもしれない。 ③人と防災未来センターにある兵庫県立大学：青田先生の講演を聞いた。防災に関する文系の大学院大学である。日本での政治・行政は文系の人が動かしていると思うので、国の防災を担うような人材輩出を期待したい。 ④上原さんのアレンジで青田先生、荏本塾長、と豪華メンバーでの懇親会は有意義だった。神戸の中華街は初めてだった。横浜の中華街と比較すると少し規模が小さいが、アーケードになっていた。翌朝の慰霊祭は生憎の雨であったが、元町プラザホテルから慰霊祭会場の間アーケードを通り、殆ど傘をささずに往復できた。 ⑥震災保管庫は阪神深江駅からタクシーで行ったが、地元タクシーも場所を知らなかった。もはや震災への関心は薄く、行く人が少ないのだろう。私は2度目だが、地震エネルギーの強力さを改めて実感した。 ⑦⑧濱口梧陵の「稲むらの火」は以前から聞いており、たまに講演でも話題にすることはあったが、今回記念館や堤防を見ることが出来て、少し受け売りから脱却できる。和歌山県湯浅の国民宿舎「湯浅城」は完全にお城の外観で素晴らしかった。早川さんありがとう。 湯浅から 7 人がサイクリングで⑦⑧⑨⑩と巡つたが、稲むらの火の大津波、その他、濱口梧陵の偉業には感銘したが、百数十年も前のことであり悲壮感は感じず、楽しいサイクリングだった。		
資料：（含む展示）			